

シーボーク800MJ

機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P1 糸長入力

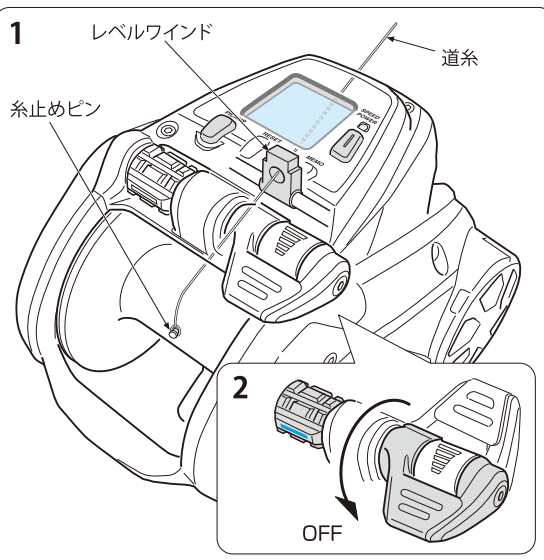
リールに巻く糸の長さがわかっている時に便利な方法です。
(PE10号500mを巻いて入力することを例にしてご説明します。)


やけどに注意!

道糸入力の際は、モーターが過熱しフレームが非常に熱くなりますので手で直接フレームを触らないでください。濡らしたタオル等をフレームに当てて入力をお願いします。

1.道糸をレベルワインドに通してスプールに結んでください。

- ※付属の糸通しピン (P.12参照) を使うと簡単に通せます。
- ※スプール面での糸滑り防止のため、必ず糸止めピンに糸を結んでください。
- ※ドラグを締め付けてください。



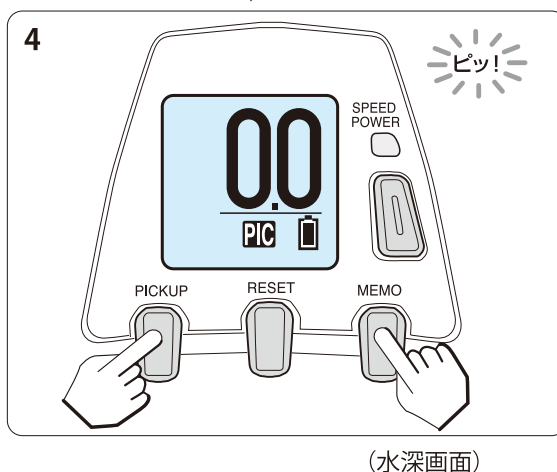
2.ジョグパワーレバーをOFFまで戻します。

3.リールを通电させてください。

- ※接続方法についてはP.8「電源のつなぎ方」を参照ください。

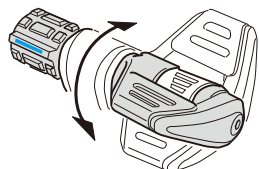


4.表示が 0.0 のときに MEMO スイッチと PICKUP スイッチを同時に2秒間押し続けてください。



機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P1 糸長入力

5. ジョグパワーレバーで「道糸入力」を選択し
OK (MEMO スイッチ) を押します。



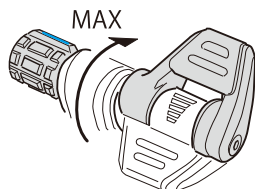
※ジョグパワーレバーを動かすことで選択項目が反転表示されます。

※《実行しますか?》が流れ文字として表示されるので、ふたたび**OK** (MEMO スイッチ) を押します。

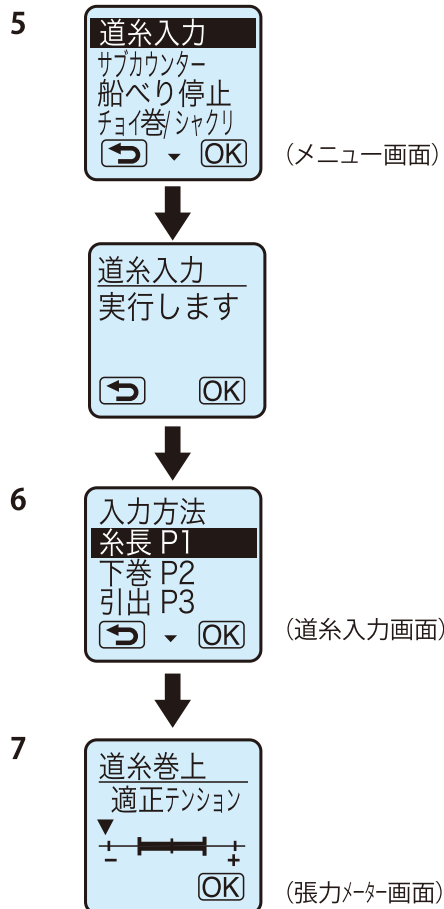
6. 「糸長 P1」を選択し
OK (MEMO スイッチ) を押します。

※自動的にスピードレンジに切り変わります。

7. テンションを調整して、ジョグパワーレバーを
 MAXの位置まで倒し道糸を巻きます。



※巻上中、▼がなるべく画面中央にくるようにテンションを調整してください。

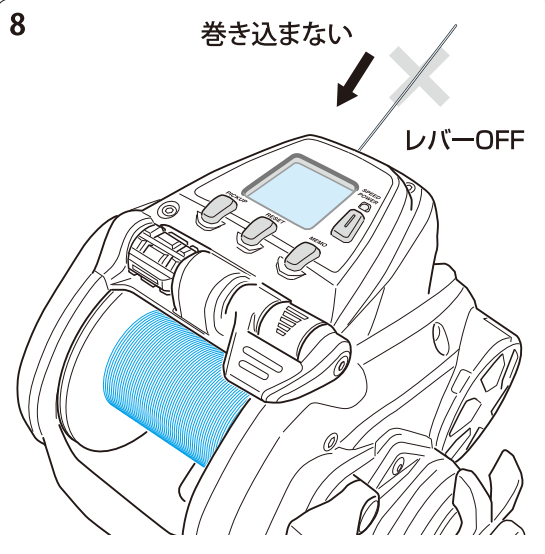
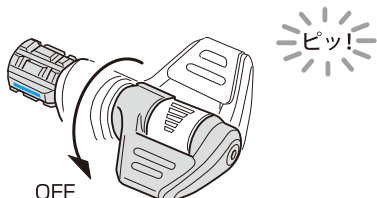


注意

- ・フィンガーガードやフレームに糸があたると、リールが傷つくことがあります。糸があたらぬようにご注意ください。
- ・屋内で低速・高テンションで長時間かけて糸を巻くと、モーターが異常に過熱し故障の原因になります。スピードレンジでジョグパワーレバーをMAXにして入力を行ってください。また、実釣時には海水等で冷却されますのでご心配ございません。

機能設定の基本操作「2.道系入力」 P1 糸長入力

8.巻き終わったらジョグパワーレバーをOFF位置まで戻し **OK** (MEMO スイッチ) を押します。

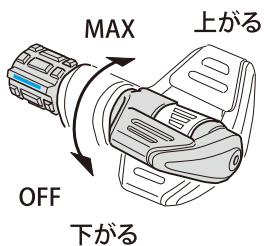


注意

- ・糸を全部巻き込まないようにしてください。手前でジョグパワーレバーをOFFの位置にし、ハンドルで残りのラインを巻いてください。巻き込みますとカウンター誤差の原因になります。
- ・この入力方法はPE3号未満の細糸は入力することができません。
- ・PE3号を巻く場合、スプール外径近くまで巻くと、スプールとフレームの間にPE糸が入り込む恐れがありますので、スプール外径から1mm程度少なめに巻く事をお勧めします。

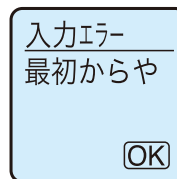
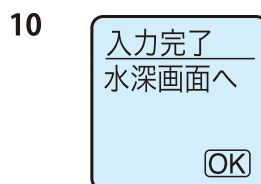
9.ジョグパワーレバーで、道系の長さを選択し、**OK** (MEMO スイッチ) を押します。

- ※図は、500mにセットした場合です。
- ※初期設定値は、600mです。
- ※セットする数値は、10m単位です。



10.入力完了画面が表示されたら **OK** (MEMO スイッチ) を押し、水深画面へ戻り、入力を終了します。

- ※入力エラー画面が表示された場合は、**OK** (MEMO スイッチ) を押し、水深画面へ戻り、最初からやり直してください。



機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P2 下巻入力

長さのわかる道糸が100m以上必要です。



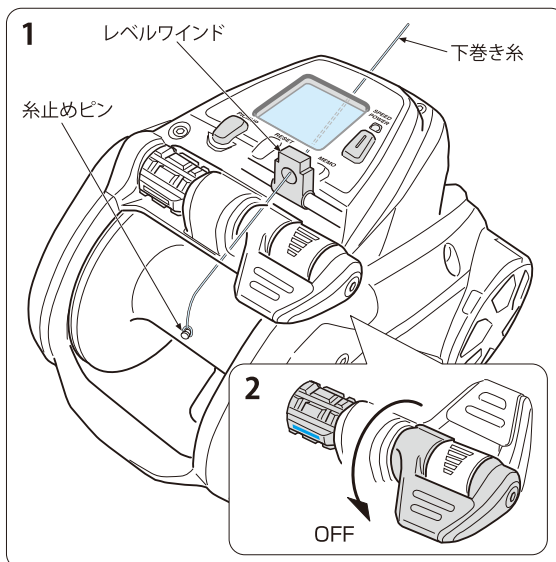
やけどに注意!

道糸入力の際は、モーターが過熱しフレームが非常に熱くなりますので手で直接フレームを触らないでください。濡らしたタオル等をフレームに当てて入力をお願いします。

1.下巻用の糸をレベルワインドに通してスプールに結んでください。

- ※付属の糸通しピンを使うと簡単に通せます。
- ※スプール面での糸滑り防止のため、必ず糸止めピンに糸を結んでください。
- ※ドラグを締め付けてください。
- ※既に下巻が完了している場合は、そのまま次へ進んでください。

2.ジョグパワーレバーをOFFまで戻します。



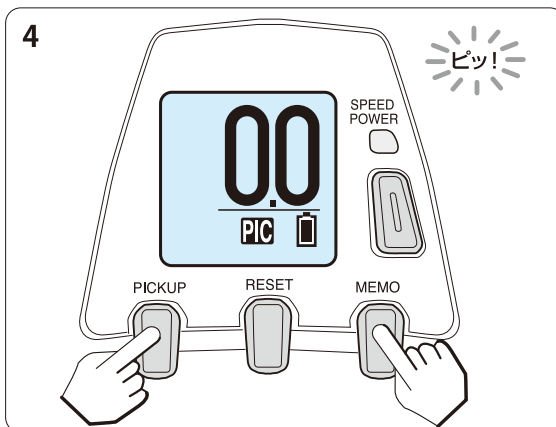
3.リールを通电させてください。

- ※接続方法についてはP.8「電源のつなぎ方」を参照ください。



(電源投入画面)

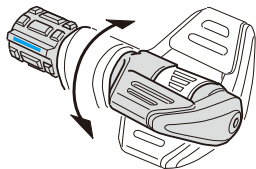
4.表示が **0.0** のときに
MEMO スイッチと **PICKUP** スイッチ
を同時に2秒間押し続けてください。



(水深画面)

機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P2 下巻入力

5. ジョグパワーレバーで「道糸入力」を選択し
OK (MEMO スイッチ) を押します。



※ジョグパワーレバーを動かすことで選択項目が反転表示されます。

※《実行しますか?》が流れ文字として表示されるので、ふたたび **OK** (MEMO スイッチ) を押します。

6. 「下巻 P2」を選択し
OK (MEMO スイッチ) を押します。

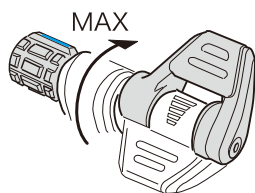
※自動的にスピードレンジに切り変わります。

7. 下巻用の糸を巻き、巻き終わったら
OK (MEMO スイッチ) を押します。

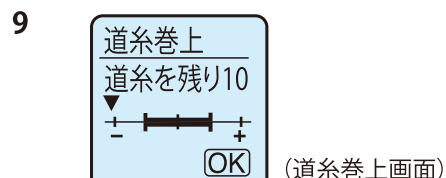
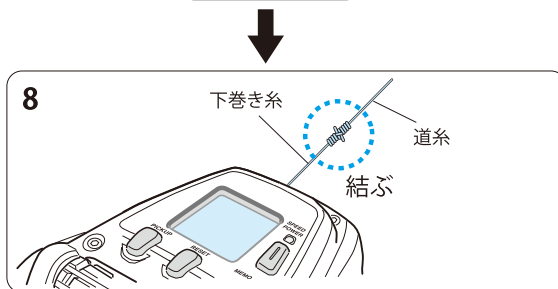
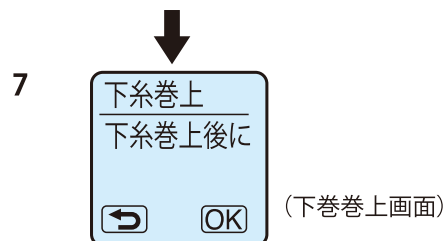
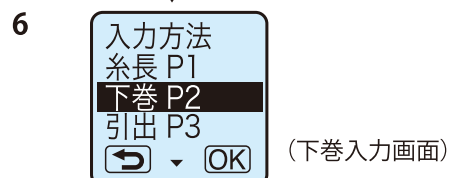
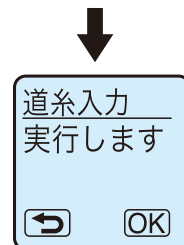
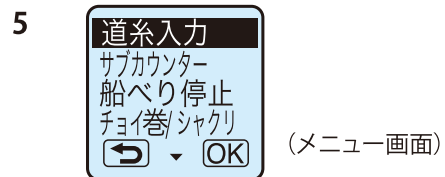
※既に下巻が完了している場合は、そのまま **OK** (MEMO スイッチ) を押します。

8. 上糸をしっかり結びます。

9. テンションを調整して、ジョグパワーレバーを
 MAXの位置まで倒し、糸色に注意しながら残り
 100mになるまで道糸を巻きます。



※巻上中、▼ になるべく画面中央にくるようにテンションを調整してください。

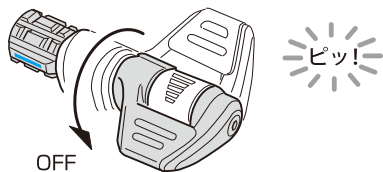


機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P2 下巻入力

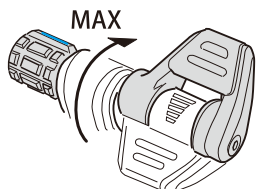


- ・フィンガーガードやフレームに糸があたると、リールが傷つくことがあります。糸があたらないようにご注意ください。
- ・屋内で低速・高テンションで長時間かけて糸を巻くと、モーターが異常に過熱し故障の原因になります。スピードレンジでジョグパワーレバーをMAXにして入力を行ってください。また、実釣時には海水等で冷却されますのでご心配ございません。

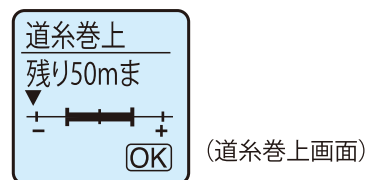
10. 巻き終わったらジョグパワーレバーをOFFの位置まで戻し **OK** (MEMO スイッチ) を押します。



11. テンションを調整して、ジョグパワーレバーをMAXの位置まで倒し、糸色に注意しながら50m道糸を巻いてください。

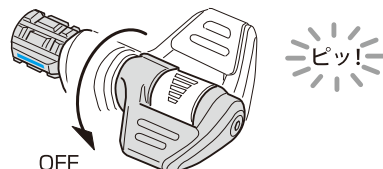


11

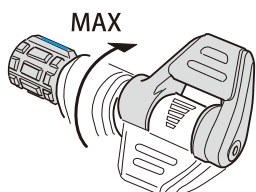


※巻上中、▼がなるべく画面中央にくるようにテンションを調整してください。

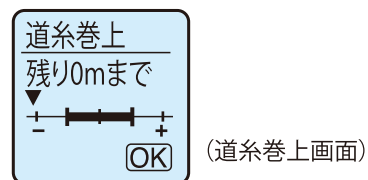
12. 巻き終わったらジョグパワーレバーをOFFの位置まで戻し **OK** (MEMO スイッチ) を押します。



13. テンションを調整して、ジョグパワーレバーをMAXの位置まで倒し、糸色に注意しながら最後まで道糸を巻いてください。



13



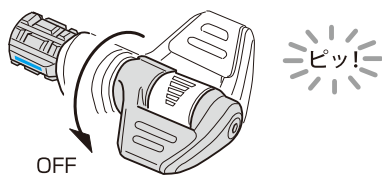
※巻上中、▼がなるべく画面中央にくるようにテンションを調整してください。

機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P2 下巻入力



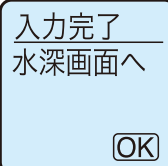
- ・糸を全部巻き込まないようにしてください。手前でジョグパワーレバーをOFFの位置にし、ハンドルで残りのラインを巻いてください。巻き込みますとカウンター誤差の原因になります。
- ・この入力方法はPE3号未満の細糸は入力することができません。
- ・PE3号を巻く場合、スプール外径近くまで巻くと、スプールとフレームの間にPE糸が入り込む恐れがありますので、スプール外径から1mm程度少なめに巻く事をお勧めします。

14. 巻き終わったらジョグパワーレバーをOFFの位置まで戻し **OK** (MEMO スイッチ) を押します。

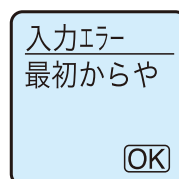


15. 入力完了画面が表示されたら **OK** (MEMO スイッチ) を押し、水深画面へ戻り、入力を終了します。

15



※入力エラー画面が表示された場合は、**OK** (MEMO スイッチ) を押し、水深画面へ戻り、最初からやり直してください。

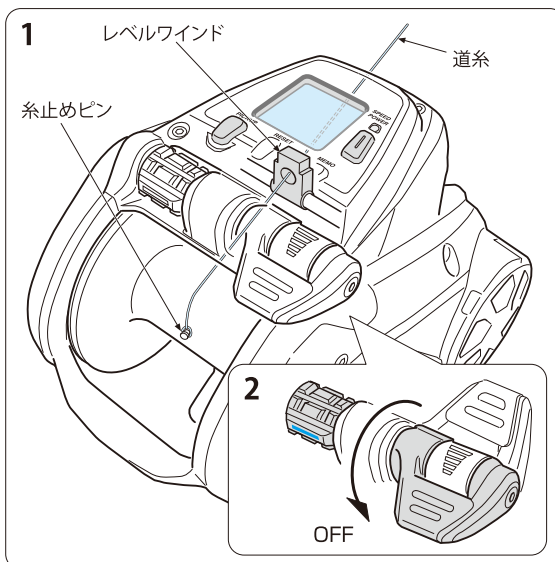


機能設定の基本操作「2.道系入力」 P3 引出入力

道糸を巻き終わった状態から引き出して再入力する時に便利な方法です。ただし長さのわかる道糸が100m以上必要です。

1.道糸をレベルワインドに通してスプールに結んでください。

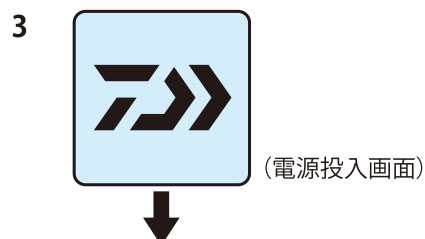
- ※付属の糸通しピン（P.12参照）を使うと簡単に通せます。
- ※スプール面での糸滑り防止のため、必ず糸止めピンに糸を結んでください。
- ※ドラグを締め付けてください。



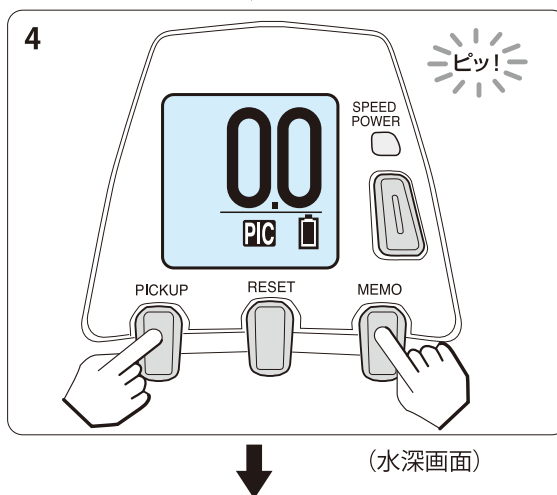
2.ジョグパワーレバーをOFFまで戻します。

3.リールを通电させてください。

- ※接続方法についてはP.8「電源のつなぎ方」を参照ください。

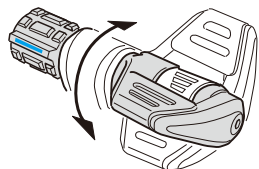


4.表示が 0.0 のときに MEMO スイッチ と PICKUP スイッチ を同時に2秒間押し続けてください。



機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P3 引出入力

5. ジョグパワーレバーで「道糸入力」を選択し
OK (MEMO スイッチ) を押します。



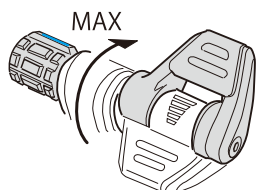
※ジョグパワーレバーを動かすことで選択項目が反転表示されます。

※《実行しますか?》が流れ文字として表示されるので、ふたたび **OK** (MEMO スイッチ) を押します。

6. 「引出 P3」を選択し
OK (MEMO スイッチ) を押します。

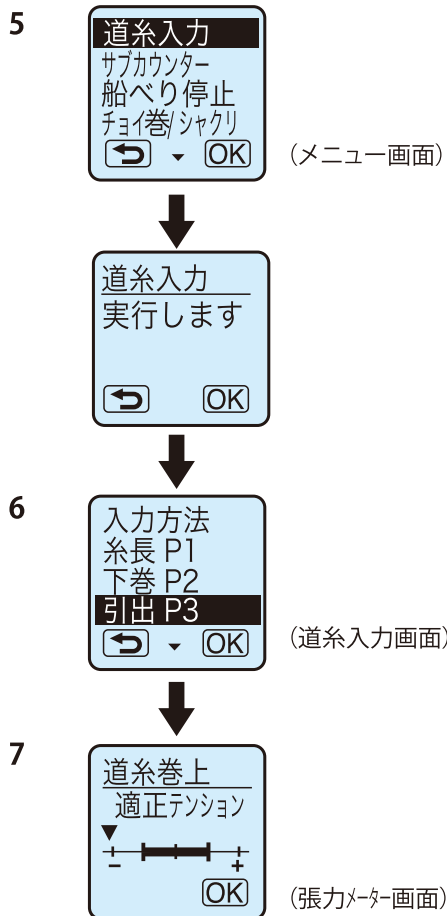
※自動的にスピードレンジに切り変わります。

7. テンションを調整して、ジョグパワーレバーを
 MAXの位置まで倒し道糸を巻きます。



※巻上中、▼がなるべく画面中央にくるようにテンションを調整してください。

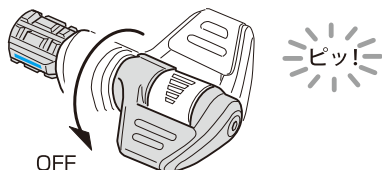
※既に道糸巻上が完了している場合は、そのままを **OK** (MEMO スイッチ) を押します。



注意

- ・フィンガーガードやフレームに糸があたると、リールが傷つくことがあります。糸があたらないようにご注意ください。
- ・屋内で低速・高テンションで長時間かけて糸を巻くと、モーターが異常に過熱し故障の原因になります。スピードレンジでパワーレバーをMAXにして入力を行ってください。また、実釣時には海水等で冷却されますのでご心配ございません。

8. 巻き終わったらジョグパワーレバーをOFFの位置まで戻し **OK** (MEMO スイッチ) を押します。



機能設定の基本操作「2.道系入力」 P3 引出入力

9.糸色に注意しながら50m引き出して、
OK (MEMO スイッチ)を押します。

10.糸色に注意しながら50m引き出して、
OK (MEMO スイッチ)を押します。

11.入力完了画面が表示されたら
OK (MEMO スイッチ)を押し、水深画面
へ戻り、引出した糸を巻き取って完了です。

※入力エラー画面が表示された場合は、
OK (MEMO スイッチ) を押し、水深画面へ戻り、最
初からやり直してください。

